

# 高退協ニュース

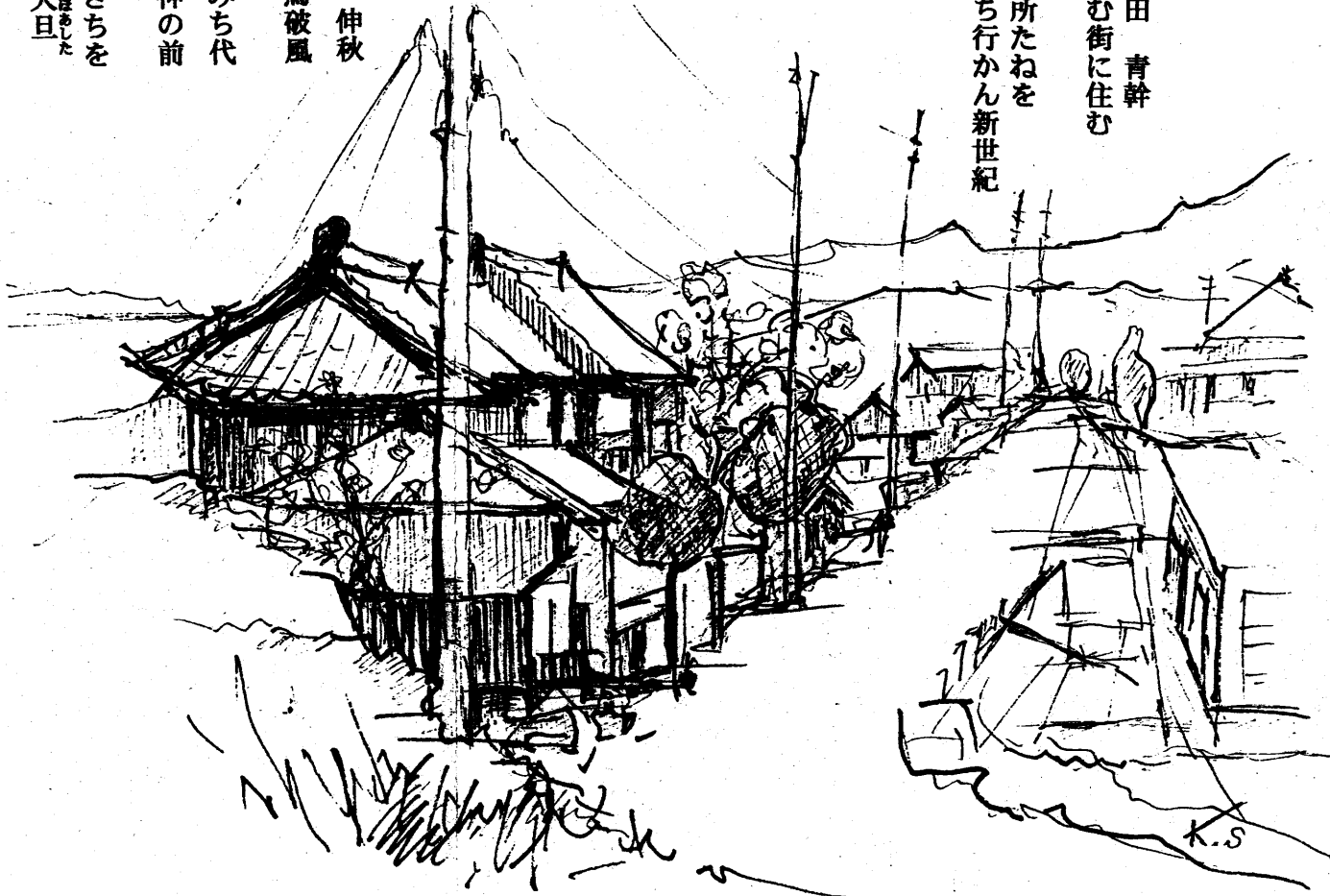
高知高退協  
事務局  
2001・1・1  
No.108

高知県高等学校退職職員協議会  
高知市丸ノ内2丁目1-10  
TEL 088-818-2216  
TEL 088-818-2216  
郵便振替口座 0165012111893



合田 青幹  
海よりの初日を拝む街に住む

田所たねを  
これよりはほちほち行かん新世紀



吉本 伸秋  
燦然と初日唐破風千鳥破風

中内みち代  
お降りや静かに進む神の前

小笠原さちを  
二世に跨がる余生大旦

## 年頭のご挨拶

高退協会長 岡崎清恵

明けましてお目出とうございます。心からお慶び申し上げます。  
21Cの幕明けとなりました。この世紀が私たちに与えてくれた平和と人権拡充の素晴らしい世紀になることを祈らざるを得ません。  
20Cの初頭の日本は、日清戦争の勝利に酔い、更に大陸侵出の野望を抱き、日露戦争への歩みを速め、それが一九四五年八月の全面無条件降伏に至る悲劇の前半世紀となりました。  
しかし、続く後半世紀、人類は民族独立、平和、民主主義、人権尊重の歩みをつけ、今日に至りました。私たち自身も、歴史の教訓に立ち、「勤王は戦争への一里塚」「教をえ子を再び戦場に送るな」「平和と真実を貫く民主教育の確立」のスローガンを高く掲げ、不屈に闘い進み、人類史の前進に貢献できました。  
21Cを、平和で豊かで、文化の香る希望に満ちた世紀にするため、残された歳月を共に元気に頑張りましょう。皆様の多幸を心から祈念します。高退協万才！

### 初歩きと新年会の集い

高退協・山の会

日時：1月5日 10時十津バス停集合  
コース：大平山 — 峰寺 — 桂浜荘  
新年会：5時桂浜荘、会費5500円  
申込み：上岡 積 860-0978  
桑原豊子 842-7409  
竹島寛之 832-1097  
締切り：12月27日

### 草声老話

21世紀が始まった。新しい世紀にはそれにふさわしい希望を見いだしたい。だが、20世紀の残滓を拭い去り、新しい組織を構築しない限り、新しい世は生まれない。  
ところで、ここ数年間の日本政治を振りかえれば、その在りようは言語道断と言えぬ。

銀行、大企業、ゼネコンには血税を湯水の如くつぎ込み、選挙制度は政権政党に有利なように改悪する。一方、消費税・年金・保険制度改悪・不完全な介護保険制度など、国民の負担は増すばかりでいいことは何一つない。

21世紀を希望の世紀とするためには、醜悪な政治家(や)どもを追放する(こと)が課題となる。

次に、地球温暖化に象徴される深刻な環境汚染問題である。汚染物質は年々蓄積する一方なのに、利潤追求、資本の論理に支配されて、発生源規制は遅々として進まない。昨年末、オランダ・ハーグの「温暖化防止会議」での「エネルギー消費に当たって、森林の吸収力を大幅に認めよ」という日米の主張は、経済大国のエゴそのものである上に、「吸収力」自体にも数量的な定説はない。特に、世界中の森林破壊に加担している日本には、それを主張する資格すらない。

クリーンエネルギーが開発されていない現状では、エネルギー消費量を抑えるしかあるまい。あふれる物質的豊かさを少し整理し、多少の経済的減速も耐える。環境に悪影響を及ぼす商品の不買運動も含めて組織的に対応する。これ以外にはないだろう。

21世紀は、我々の環境に対する意識が問われている世紀であると思う。人類はじめ命あるものが生存可能な地球を後世に残すために、

T・K・(j)

寒東寺残日録  
坪井 幹之

下天の旅

「高退協読書会」九月例会は池宮彰一郎の「本能寺」を取り上げた。九月のニュースで浜田昌俊さんが紹介していたが、筆者にはたいへん面白い小説であった。作中の人物に惚れこんだのも久しぶり。子供の時に読んだ吉川英治の「宮本武蔵」と貸本屋で全巻を読み通した「アルセーヌ・ルパン」以来である。希代の天才、日本史上最大の怪物織田信長は謎に包まれている。寡黙で口にした言葉は短切な結論のみ、書き遣したのも僅か。真の姿を知る資料がな

戦争遺跡保存

全国シンポジウムの

二報告と三支援の御礼

第4回戦争遺跡保存全国シンポジウムは、8月18、20日に南国市で開催され、大きな成果をおさめました。「えん体壕」など現地見学会には、県内外から約一五〇名、シンポジウムには、同じく二一〇名が参加し、風化、崩壊しつつある戦争遺跡の現状や保存方法などについて研究、交流がすすみました。会の運営に当り、高退協のみなさんの絶大なご支援を頂き、心より御礼申し上げます。県外の参加者からも、「高知は凄いがよく協力している」との評価をうけました。今後ともよろしく願います。  
(窪田充治)

全退教学習交流会

中岡鉄夫

第九回全国集会是、去る十一月二〇、二一日、京都嵐山「花のいえ」で開催されました。全国から九十八名の参加があり、高知から、竹村・中岡が参加しました。第一日は、十三時開会で、有賀会長の挨拶があり、全

い。残るのは華麗な事跡だけ。その評価は凡人の手幅に叶うものではない。この魅力に満ちた人物を体現できる俳優がいるだろうか。大河ドラマでも何回か演ぜられたが、真の姿からはほど遠い。高橋幸治が評判になったこともあるが、とてもとても。  
「人間五十年、下天のうちにくらぶれば、夢まぼろしの如くなり」、四十八年の信長の足跡を辿る旅が企てられた。読書会初の修学旅行というわけ。参加は浜田、坪井の二名。十一月十四日、まずは名古屋の桶狭間に向かう。この有名な古戦場は今や市街地のまただ中。「秋風や 往事茫茫 塚一つ」。その夜は岐阜の長良川温泉に泊まる。

教より長谷川副委員長の情勢報告、地元退教東谷会長の歓迎挨拶の後、幹事会の基調報告があり、記念講演は、立命館大学名誉教授岩井忠熊先生の「国家主義的逆流をどう見るか」神の国・教育勅語礼賛発言・教育基本法改悪、(新しい歴史教科書)に触れて」がありました。

十八時三十分より夕食・懇親会があり、盛会のうちに第一日を終わりました。第二日目は、九時、十一時三十分まで五分散会があり、中岡が第三分散会、竹村氏が第四分散会に参加しました。尚第一日の報告の時竹村氏より「偲ぶ会」について七分間の報告がありました。その他全国各地から数県の報告がありました。詳細については、後日会報でお知らせするはずですが、以上全退教第九回全国学習・交流会集の概略を報告しました。

十二月七日、参加者四九名は過去最高、うち二〇名の女性は、会員比率を大きく上回っています。当然のことながら、大酒をくらったのケンカ議論は陰をひそめスマートになり

空前の盛況・望年会

十五日、早期岐阜城を訪ねる。信長が天下制覇の根拠地とした城。天守閣からは日本アルプスも遠望できる。「城高し 美濃も尾張も 霧の中」次いで東海道線の鈍行で安土へ。いわば近世の幕開けを劇くした土地の城跡は壮大。  
「天下布武 落ち葉積もりし 夢の跡」。2日目は京都泊。十六日、御所を経て、本能寺に向かう。信長が自刃したのは現在の寺ではない。その場所を探して京の街を彷徨。  
「古都の秋 夢まぼろしの寺いずこ」同行二人、強行軍であったが有意義な旅と総括。

今年も職美展

開催がややぶまれていた職美展ですが、総会で次のように今年も開催することが決まりました。ぜひ出品をお願いします。

期日 2月または3月  
場所 ポプラ会館

開宴は、山原元衆議院議員の乾杯の音頭で、闘いを振り返りながらまだまだこれからと意気軒昂です。

昨年からは単なる飲み食いだけの会ではなく、作品展や芸能発表を企画しました。作品は両サイドの壁面を埋めつくし、テーブルの上にもかなり。プロとアマが混在するところに楽しさがあります。写真、絵、工芸、陶芸など、来年はより多くの出品をお願いします。

ステージ、長老池上氏のマジックが皮切り、浪曲、詩舞など、圧巻は女性二〇名のステージでのコーラス?。あとカラオケ、次から次にと続きました。

声が出んし、しんどいと断った山原、小松の両氏、ちゃんとオハコのソーラン節と初恋を披露されました。ところで、高退協会員、高教組OB OGだけでなく、私学、非組、独教だった方も入会、望年会にも参加されていきました。今後大いに巾を広げていきましょう。

来年は、参加者五十の大台をぜひ越えたいものです。

「勤評」11人の

先生方を偲ぶ会」開催

ご遺族、教職員百八名集う

11月25日(土)午後1時から高知城ホール4F大ホールで標記の会が持たれました。「偲ぶ会」は、県教組、勤評の会、退婦教、県退教協、高退協の五団体が五年に一度催すものです。今回の該当者は、近藤利仲、永野清規、柳瀬増男、山脇武喜、藤本幹吉、田内稲美、福田朋嘉、津田春彦、坪田実、堀内仁蔵、成瀬孝一郎の各先生でした。

杉村県教組書記長の司会、岡崎高退協会長の開会挨拶が始まり、全員が「緑の山河」を斉唱しました。つづいて、川崎雅宏勤評の会事務局長が経過報告を行い、参加者全員が飾り付けられた遺影に献花して、ご冥福をお祈りしました。

石元県教組委員長、山原勤評の会々長の挨拶、橋本参議院議員の来賓挨拶と続いた後、遺族代表の山崎千行先生(田内校長のご子息)から感謝の言葉、西森県退教協会長の閉会挨拶で第一部を終了。2時半から懇親会をもち、勤評闘争を回顧し、現状を憂え、平和と民主教育を守ろうと誓い合いました。湯浅秀夫先生が閉会挨拶を行い4時に全日程を終了しました。高退協からは20名の先生方が参加しました。

10への派遣  
カンパのお礼



退職者の方々から多くのカンパをお寄せいただき、ありがとうございます。世界を視野にいれた新しい闘いの第一歩をふみだすことができました。

頂いたカンパは旅費の一部に当てさせていただくと共に、報告集の作成や、今後の運動の資金として活用させていただきます。石元巖・野村幸司

### 成瀬孝一郎先生を偲んで

梅原憲作

成瀬孝一郎先生が九月十九日亡くなった。九十二歳だった。

先生は、岐阜のお生れで、東京高師の出身で戦時中は満州の中学校で教鞭をとっておられた。その当時のことを語られたことは、わたしの知るかぎりではなかった。だが、その時の体験が戦後の「教え子を再び戦場に送らない」先生の教育実践のバック・ボーンになっていたように思われる。

戦後は奥さんの郷里である高知に引き揚げてこられ、高岡高校や宇佐分校に勤めた後、勤評の少し前、須崎高校の校長に抜擢された。当時の須崎高校は旧市内の下真ん中、城山の前で便利ではあったが、戦前から須崎高等小学校の校舎敷

### 全教が

### 10周年記念作品を募集

結成10周年の記念行事です。ふるって応募下さい。

#### ①文学分野

・小説、戯曲、シナリオは原稿用紙四百字詰め50枚以内

・詩は同5枚以内（1編）

・短歌は20首以内

・俳句は20句以内

②教育分野（実践記録、研究、主張など）原稿用紙50枚以内

応募資格 全教組合員および退職した組合員

締切 3月31日

### 野中兼山・婉女

### そして土佐山田

会員の依光貫之さんが、土佐山田町の関係者より以来を受けて執筆した労作。みなさんのご一読を期待して紹介します。

野中兼山から多くの恩恵を受けている土佐山田町では、今回同町にあるお婉堂（野中神社、四国のみちの史跡）を全面改築、その完成記念として本誌を刊行したようです。

あとがきの中から依光さんの一言「読者の皆さんが一人ひとり郷土の過去や先人の苦勞をしのび、兼山やお婉さんについて考えるうえでご参考になればと願うものです。」（坪井記）

発行者 野中神社改築委員会  
土佐山田町教育委員会  
発行所 南の風社 (088-834-1488)  
執筆者 依光貫之 (0887-52-1713)  
定価 1,500円

地をそのまま新制高校の発足時に受け継いだものであり、先生の初仕事は新庄の駅前には広がる軍需工場の跡地の松下電器の敷地に移転させたという壮大な計画だった。これを地元有力者や父母を組織しながら一期、二期工事と新校舎建設を進めその大きな山場を迎えていた。一九五八年勤評闘争が始まり翌34年4月には何の理由もなく窪川高校長に転勤させられました。9年勤めていた前田中校長は高岡高校へ。両氏への懲戒免職への布石だった。



### 会員消息

島内一夫先生が「高知ペンクラブ賞」を受賞されました。長年の文学講師活動と文学作品発表の功績が認められたものです。

なお、三月二十四日（日）「受賞と新著出版祝賀会」が計画されています。詳細は後日掲載。

スタートだった。その矢先9月30日「成瀬校長懲戒免職」であった。

早速、その日の別れの「さようなら」の挨拶を「さようならをおはよう」の合い言葉に生徒、教職員が一体となった処分撤回の運動が始まった。

結局この運動は長期化し、旧校舎二階の裁縫室の泊まり込みは高南台地窪川に厳しい冬が到来し、生徒も若い私たちも夜の寒さに耐えられなくなるまで続いた。正式の校長としては半年間であったが、職員会や各種の会議などの裁きは民主的であり、管理職としてリーダーシップがあり見事であった。しかし、大好きな唯一の趣味、ストレス解消は囲碁であった。同趣味の市川教頭と放課後の宿直室

### 短歌

「しんじつの秋の日照れば」抄

梅原忠彦

竜野公園哲学の小道はさくら咲きつつじ彩りて三木眠らせる

（竜野市「龍城館」にて）

「しんじつの秋の日照れば」の墓碑に会ひ青春の読書いまよみがへる

（墓碑銘）しんじつの秋の日てればせんねんに心をとめて

歩まざらめや 清

幾多郎が清へ宛てし葉書の字青きインクも歳月に古り

（西田幾多郎と三木清）

几帳面なやや右下がりの書体もてかの全集は著はされしか

三木獄死知りしは敗戦ひとつき余なほ師範校長は説きし

天皇制護持

アフリカへ衣服を送る

山本晶子

段ボールに詰めて古着屋に持てゆけど流行遅れとつき返さるる

しえいとばかり不燃物として出したれど服の命を無惨にし

ポタンつけカギホックを補いアフリカに送る衣服の整ひにけり

この下に高松塚古墳眠りをり壁面の男女の生き生きとし

男子をば生まざりしゆゑ処刑されつロンドン塔にて若き王妃が

